

今号では「国連は反日運動にいかん利用されてきたか？」と「台湾の歴史認識問題」の二つの特集を組むことができた。

前者では歴認研として研究会を組織し、精力的に調査研究を進めてきた結果の一部を発表した。なんと日本の左派勢力は1983年から国連で活動を始めていた。国連が我が国についておかしな報告をくり返し出していること背景には、彼らの息の長いロビー活動があった。

事実にもとづく歴史認識を国連に集う人たちにいかに伝えていくかが、官民挙げて取り組むべき課題であることを再度、確認できた。そのためにも、私たちの側も力をつけなければならない。本研究会の使命は大きい。一層のご支援をお願いする次第だ。

後者では、歴認研として今年3月に行った台湾調査の結果を公表した。昭和20年に2万4千円という大金を台湾に送金していた台湾人慰安婦がいたことを発見できたことは、大きな成果だった。

詳しいことは報告を読んでほしいが、韓国人慰安婦がビルマで2万6千円の軍事預金をしていたことに対して、左派学者らは戦地はインフレがひどかったから慰安婦の待遇がよかった証拠にはならないと強弁していた。今回発見したのは台湾銀行の通帳だから、大金を台湾へ送金できたということだ。慰安婦は性奴隷ではなかったという明白な証拠だ。

この間、歴認研として全力で取り組んできた朝鮮人戦時労働者問題については、特集にはしなかったが、長谷研究員の実証論文を掲載すると共に、韓国におけるこの問題の一人者である李宇衍氏に、拙著の書評を書いてもらうことができた。

李宇衍氏は金基洙弁護士らと共に、慰安婦像・労働者像設置に反対する運動を積極的に展開している。6月5日にソウル中心

部で開催された街頭集会の様子を、本号のニュース欄で詳しく報告した。歴認研では10月に李宇衍氏と金基洙弁護士を招いて、福岡(4日)、大阪(5日)、東京(6日)と国際シンポジウムを連日開催する。詳しくは、本号164頁を見てほしい。(西岡)

日本では、一躍「時の人」となった感のある李宇衍氏だが、李氏の主張ならびにそれを支援する相当数の韓国人がいるという事実は、韓国にも「言論の自由」が残っており、韓国世論は「反日」一辺倒ではないということの貴重な証、と言える。

右から左まで様々な考えがあり、言論の自由が保証されている日本では当り前のことも、韓国では決して「当り前」ではない。李氏が韓国人から唾を吐きかけられている場面をテレビで見たが、韓国ではそれだけの主張をするには、やはりそれだけの覚悟が要るということだ。

彼らは、独自の研究によって慰安婦「性奴隷」説を否定し、朝鮮人戦時労働者「強制連行」説をも否定している。「反日」ではない韓国の自由な研究者と我々とで、今後実証的な共同研究を積み上げ、歪んだ日韓間の歴史認識を是正しなければならない、と覚悟を新たにしている。(勝岡)

## 歴史認識問題研究

(年2回発行)

### 第5号 (令和元年秋冬号)

発行日：2019年9月19日

発行人：西岡 力

編集人：勝岡 寛次

編集部：歴史認識問題研究会

頒 価：1,000円

発行所：〒277-0065 柏市光ヶ丘2丁目1番1号

公益財団法人モラロジー研究所

歴史研究室

T e l : 04-7173-3197

F a x : 04-7173-3199

印刷所：株式会社 長正社